

特定鳥獣(カワウ)の保護及び管理に係る研修会

研修資料

この研修資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Web での掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

平成30年度特定鳥獣(カワウ)の保護及び管理に係る研修会

対 象: 都道府県もしくは市町村の鳥獣及び水産等行政担当者

開 催 日: 2018年8月22日(水)～8月24日(金) 2泊3日

場 所: 府中市市民活動センター プラッツ

講師と科目 : 加藤ななえ(カワウの生態と生息状況)

: 鎌田憲太郎(鳥獣保護管理関連の法制度等)

: 鈴木信一(水産庁によるカワウ被害対策について)

: 高木憲太郎(カワウの個体群管理の考え方)

: 山本麻希(個体群管理事例 ～新潟県～)

: 芦澤晃彦(個体群管理事例 ～山梨県～)

: 加藤洋(個体群管理事例 ～紀伊長島鳥獣保護区～)

: 高木憲太郎(個体群管理事例 ～広島県～)

: 山本麻希(グループワークの目標と進め方)

: 加藤洋(個体数調整の現状と最新技術)

: 坪井潤一(分布管理の現状と最新技術)

室内実習: グループワーク: 都道府県や市町村におけるカワウ管理の課題整理と対策立案

実習指導: 山本麻希、芦澤晃彦、坪井潤一、加藤洋、高木憲太郎、加藤ななえ

個体群管理事例 広島県 ～専門家の立場で考えたこと～

NPO法人バードリサーチ

高木憲太郎

広島県では、平成 26 年度からカワウのねぐら・コロニーにおける生息状況調査を実施しており、平成 28 年 12 月時点で利用されているねぐら・コロニーは内陸部及び瀬戸内海沿岸部に 37 か所にも上りました。その後もカワウの生息数が増加し、水産被害等が更に深刻化するおそれがあることから、平成 29 年 4 月に、科学的知見に基づいた被害管理・個体群管理・生息地管理のための各種対策を総合的かつ計画的に講じて、カワウによる各種被害の軽減と個体群の安定的維持を図ることを目的とした第二種特定鳥獣（カワウ）管理計画が策定されました。私は、この計画の作成に専門家として関わらせていただき、計画策定前の数年間、足繁く広島に赴いて現地の状況を拝見し、調査や対策へのアドバイスをさせていただきました。この講義では、私が外部の人間の立場で広島県の管理の方向性について考え、関係者に伝えた内容をもとに、個体群管理についてお話しします。スライドは主に広島県の「第二種特定鳥獣（カワウ）管理計画」の図表を使用していますが、話す内容は私の考えや意見です。ですので、計画策定後、実際に管理を進める中で、計画通りにできないこともあるでしょうし、私の考えと広島県の考えは必ずしも同じではないことを踏まえた上でお聞きください。

カワウの管理をうまく進めるためには、核となる都道府県の水産行政担当者と鳥獣行政担当者の連携が重要です。私が関わった期間、広島県には素晴らしい担当者がいて、その他にも人材がそろっていました。このことはとても重要なことです。ただ、それでも、広島県には沿岸部から内陸部までたくさんのねぐらやコロニーがあり、管理の方向性を見定めるのは、簡単なことではありませんでした。

県全体を眺めているだけでは、的を絞れず、具体的な対策のプランニングができそうにありません。そこで、カワウの生息状況や被害状況、漁協による対策の実施状況などの情報を一つずつ見ていきました。すると、広島県は大きく 4 つの地域に分けられることに気がつきました。

まず県北部、ここはひとつのコロニーを中心として複数のねぐらやコロニーが分布していましたが、個体数は季節変動が少なく、捕獲圧も高い傾向がありました。ねぐらの分布を管理して、効率よく捕獲できる状況を作れば、主に個体数調整によって、被害を減らしていくことが効率的ではないかと考えました。

県西部は、広島湾にそそぐ太田川があり、漁協の方たちは積極的に対策に取り組んでいましたが、湾から飛来するカワウに手を焼いていました。そこで、内陸に拠点（ねぐら）を作らせず、海に追い返すビジョンで対策を組み立てると良いのではないかと考えました。もちろん、海に追い返したところで、カワウがいなくなるわけではありません。それに、瀬戸内海では、メバルなどの海面漁業もカワウによる被害を受けていました。そのため、県全体を考えた場合、県西部で描いた私のビジョンはナンセンスなものです。

しかし、最初からすべての問題を解決できる方法なんて存在しません。体制が整っていて、手を付けられる地域から計画的に管理を構築していけば、どこから手を付けたらよいかわからない状況から脱することができます。

最終的には、県南部の沿岸部に点在する島のカワウのコロニーで繁殖抑制と銃器による捕獲といった個体数調整を実施して、春夏のカワウの個体数の増加を抑制することができれば、防除対策などの効果も発揮されやすくなり、被害が減っていくと思います。

よく見かける都道府県の管理計画が、県全体のねぐらの箇所数や個体数を目標に掲げているのとことなり、広島県の計画では、4つの管理ユニットごとに目標と具体的な管理の方針が描かれているのが特徴です。

個体数調整には多額の費用も必要になりますので、思い描いたとおりに被害を減らすことができるとは限りません。予算が限りなく少ない広島県の救いは、市町の積極的な参加です。協議会には多くの市町が参加し、捕獲を含めた事業や市町間の連携について主体的な発言が多くあります。特定計画がベースとなり、良い方向に管理が進むことを期待しています。

個体群管理事例 広島県

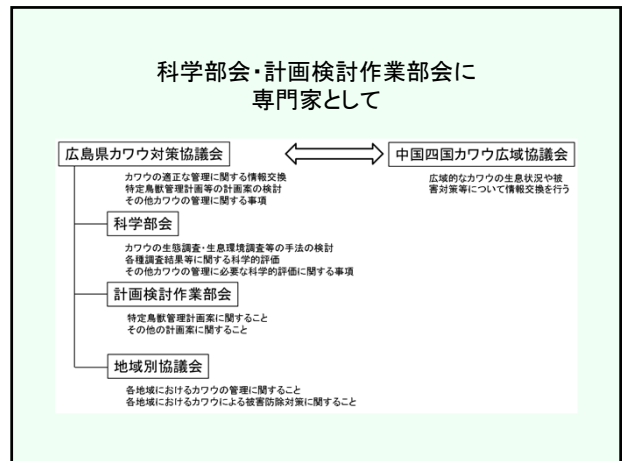
～ 専門家の立場で考えたこと～



図表出展：広島県
第二種
特定鳥獣(カワウ)
管理計画

NPO法人バードリサーチ
高木 憲太郎

Photo by 渡辺美由



カワウを知る

チーム広島を作る



Photo by 渡辺美由

チーム広島





- ・ エースピッチャー 広島県水産課 G氏
- ・ キャッチャー 広島県自然環境課 F氏

その他、選手が揃う

- ・ 強力な上位打線 漁協・漁連・水産課・市町
- ・ 支える下位打線 野鳥の会・市町・専門家

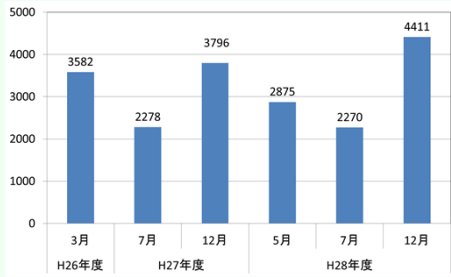


ねぐら・コロニーの規模に応じた 管理の基本方針



生息数	特徴	基本方針	対策の目的	具体的な方法
小規模 1～50羽	対策の結果、周辺に与える影響が小さい。分布抑制を目的とした対策の効果が期待できる。	分布抑制（除去）を目的とした積極的な対策を検討する。分散性の低いコロニーについてはその限りではない。	分布抑制	ビニルも張り（全体）/ 銃撃捕獲
中規模 51～200羽	対策の結果、周辺に与える影響が小さく、対策にあたっては注意が必要である。	モニタリングを含めた十分な実施体制のもと、対策の効果が期待できる場合、対策を検討する。	分布抑制 （追い出し/除去） 生態数の低減	ビニルも張り（一部または全体）/ 銃撃捕獲 銃撃捕獲
大規模 201羽～	対策の結果、周辺に与える影響が大きい。対策は慎重に行う必要がある。	周辺へ与える影響が大きいことから、積極的な対策は慎重に検討する。モニタリングを含めた十分な実施体制のもと、対策の効果が期待できる場合は、積極的な対策を検討する。	生態数の低減	銃撃捕獲 繁殖抑制（ドライアイス・偽卵法）
新規 1羽以上	カワウの生息数の増加、あるいは人為的な影響（ねぐら・コロニーの形成）等により新たに形成されるコロニーの発生が懸念される。一部の個体は、除去が難しい場合がある。生息数の増加に伴って、生態数が増加する可能性がある。生態数が増加する場合は、積極的な対策を検討する。	早期発見に努め、周辺地域における被害の発生を未然に防ぐ。生態数が増加する場合は、積極的な対策を検討する。	分布抑制/除去	ビニルも張り（全体）/ 銃撃捕獲

カワウの個体数の季節変化



衛星による成鳥の追跡

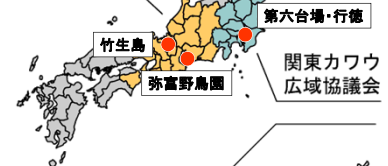
調査期間: 2006年から2008年までの3年間

捕獲時期と羽数:

東京湾の第六台場	6月	6羽
千葉県行徳	3月	1羽
伊勢湾岸の弥富野鳥園	11~12月	23羽
琵琶湖の竹生島	5~6月, 9月	19羽

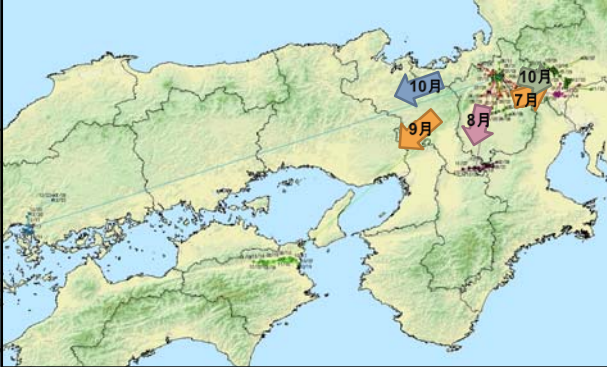


中部近畿カワウ
広域協議会

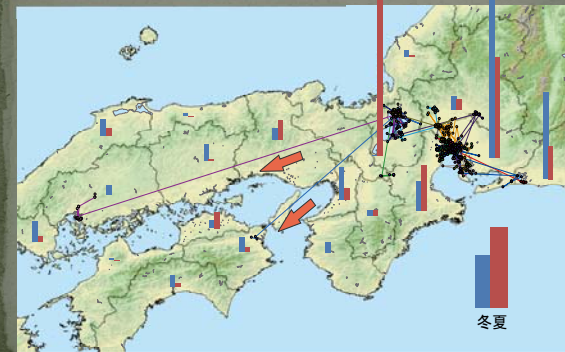


竹生島捕獲個体

平成20年度魚食性鳥類であるカワウの移動実態の解明に関する研究業務報告書(2009)より

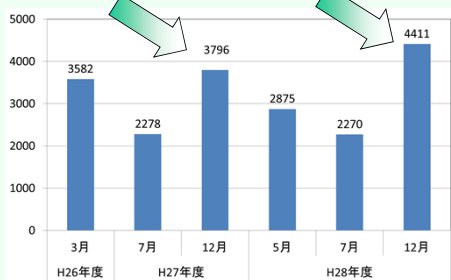


全国のカワウの個体数の季節変化

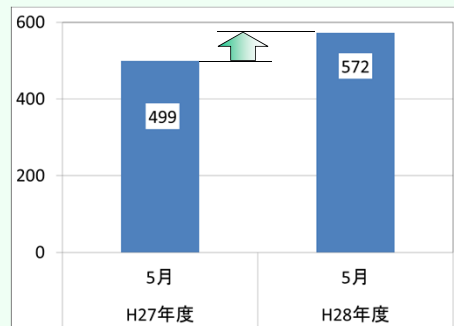


2007年前後の生息状況についてのアンケート調査による

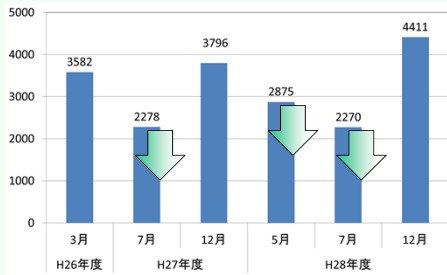
重要なのは、
ここじゃない！



営巣数の増加！！

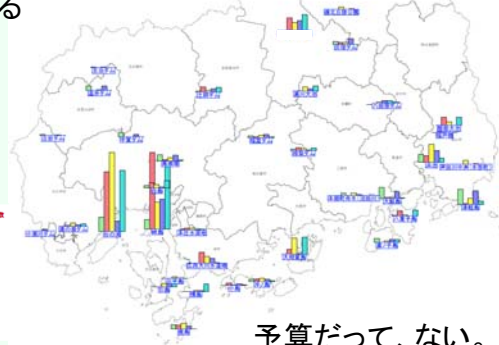


じゃあ、夏の個体数を減らせば良いのか？



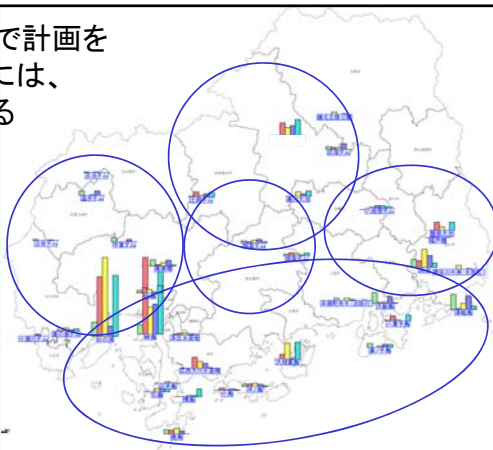
県全体で計画を考えるには、広すぎる

個体数調整の効果が
出るまで時間がかかる



予算だって、ない。

県全体で計画を考えるには、広すぎる



4つの管理ユニットに分けた！



4つの管理ユニットに分けた！

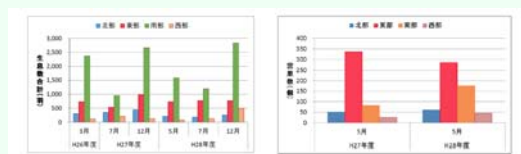


図12 各管理ユニットのねぐら・コロニーにおけるカワウ生息数の合計

図13 各管理ユニットのねぐら・コロニーにおける営巣数の合計

※ただし、南部の島嶼のコロニーにおける船からの営巣数調査は実施が困難であり、営巣数は過小評価である可能性がある。

管理ユニットごとに計画を立てる

北部



西部



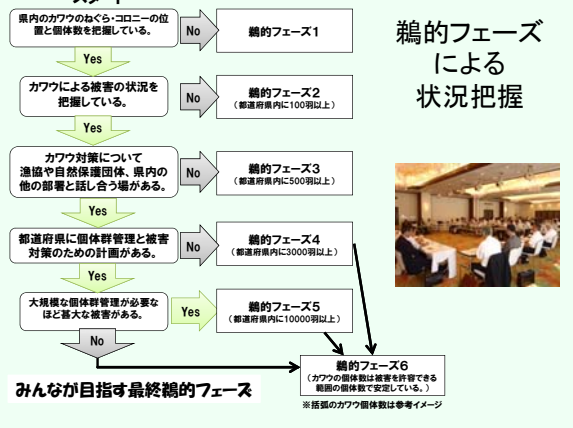
南部



東部



スタート



市町の参加は大きい

